

愛しいてい

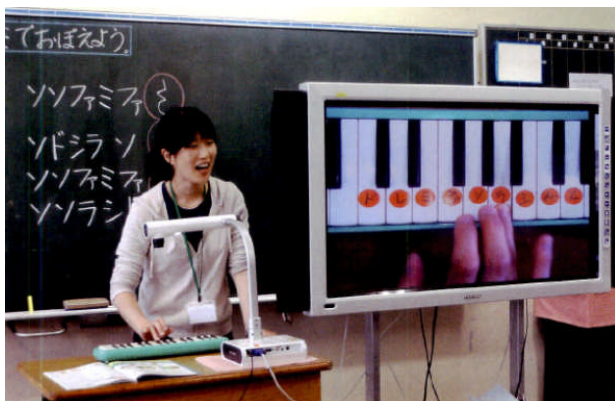
I C T

No. 7

H25. 11. 22

授業での実物投影機活用事例②いろいろな場面で映す
(「Hot Edu +」Vol.1 より引用)

■ やってみせて説明 ■



指の動きがはっきりと見えるように拡大すること子どもと同じ楽器を使うことがポイントです。

【鍵盤ハーモニカ】(小2音楽)

鍵盤と指づかいを、大きく映します。子どもの様子も見られるので、弾いている子、つまづいている子が、すぐ確認できます。

【リコーダー】(小4音楽)

高い音を出すための指使い(サミング)が一瞬で説明できます。

■ 原稿用紙やノートのマス目の説明 ■

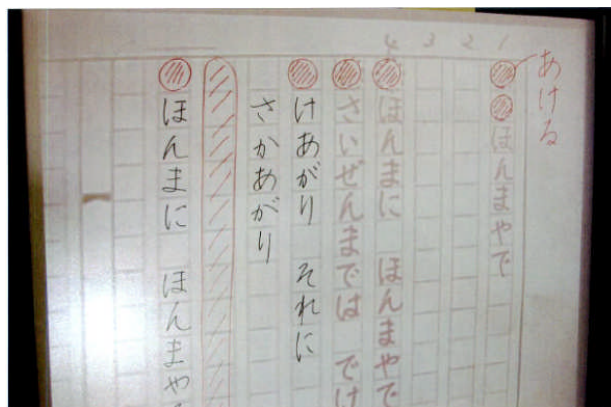
原稿用紙やノートをそのまま映し、書き込みながら教えるとわかりやすいです。

【原稿用紙】(小3国語)

言葉では説明することが難しく、定着しない、原稿用紙の書き方は、原稿用紙そのものを大きく映して説明します。

【ノート指導】(小1算数)

ノート指導は口では説明しにくく、特に低学年の子どもは理解しにくいものです。子どもと同じノートを映して書いて見せるだけで、1年生でも理解でき、全員が一回で書けます。



■ その他いろいろ ■

【一つしかない資料を共有する】(社会・国語など)

パンフレット、新聞、地球儀など一つしかない資料をみんなで共有できます。

【資料を読み解かせる】(社会)

グラフや写真、表などを映すと読み取りの仕方を丁寧に教えることができ、定着できます。

【国語辞典の使い方を教える】(小3国語)

ひき方を教えるときには辞典の全体が映るように、文字に注目させたいときには文字をアップして映します。

【用具を映して使い方を説明】(小5・6年理科)

上皿天秤、分銅の使い方などの指導のとき、実物を大きく映して説明します。時間が短くすむので、活動時間を長くとることができます。